

E. 撮影の苦労

正島 祐子

今回実際にZ園へ行き、撮影をしたがやはり撮影の難しさは実際に現地に赴いて撮影してみなければわからない。思わぬところで問題が起こり、自分の思い通りにいかないことが多々あった。そこでここでは具体的に何が問題になったのかを含めて述べていく。いくらかのエスノメソドロジーの本に紹介されている撮影に関する章を参考にしながら、より実践で活用できるよう、既刊書では書かれていない事や細かい部分もいくらか挙げる。ここでは参考文献にあげている文献に加えて、これからビデオ分析を使ったエスノメソドロジーを学ぶ学部学生のみなさんに少しでも役に立てれば幸いである。

1 調査（ビデオ撮影）の前に

まず必要なのは撮影先の許可である。相手先に出向くのはもちろんのこと、文書での承諾の取り交わしは相手先との後のトラブルを防ぐためにも重要である。具体的に何を承諾書に載せたらいいのかはこの章の「調査依頼状例」で今回調査に実際使った調査依頼状を載せているので参考にしてほしい。

2 撮影機材について

我々が撮影に用いたカメラはDVとHi8だ。この章の調査用具と収集データ一覧に詳細を載せている。今回以下で述べるのは二つに分けて機材の操作と準備である。

2-1 操作

基本的な撮影するための操作はもちろん練習しておかなければならないが、エスノメソドロジーのためのビデオ分析で必要となる操作は「時刻合わせ」である。これが重要であることはエスノメソドロジーの本でも紹介されているが、時刻合わせ自体は簡単な操作である。しかし問題はその時刻合わせしたタイマーを画面に表示するタイムコード操作だ。実際撮影してみると難しい。撮影時の時間は後に分析する際にも重要であるためタイムコード操作は確実にしておく。

しかし、カメラ本体内蔵のバックアップ電池が完全に消耗していることがある（実際に今回の撮影時に起こった）。撮影以前の問題である。本体内蔵のバックアップ電池も確認しておくことをお勧めする。

2-2 準備

撮影は多くの機材、道具を準備し、撮影先で使用しなければならない。三脚のような大きいものからテープのような小さいものまで使用するため準備物の整理を行っておくと撮影も円滑にいく。撮影に必要な機材、道具はだいたい本にも紹介されている。これも調査用具と収集データ一覧に今回使った機材を詳細に記述しているので参考にしてほしい。以下では多くの準備した機材をどう整理したら撮影に便利かを我々が実際に行っている方法を紹介しながら述べる。

多くの場合ひとつのカメラに対し必要な機材はワイドコンバージョンレンズ、バッテリー、コード、三脚などだ。その他にも外付けマイクなど撮影場所に応じて準備が必要になる、またはあると便利であるような機材はあるが、最初に挙げた基本となる機材は場所が変化しても変わらない。したがって最初から基本のセットをつくっておきそれを単位にカメラ本体も含めカメラ①,②,③…と番号をつけて管理すると管理が容易にできる。ワイドコンバージョンレンズ、バッテリー、コードにもカメラと同じ番号を振っておくと、間違っただけで違うカメラケースに入れてしまいカメラによってワイドコンバージョンレンズが二つになってしまい、別のケースからは欠落するということはなくなる。もし紛失した場合でもどのカメラのレンズが紛失したのかがすぐ明らかになる。特に今回のように数台のビデオカメラを用いて撮影をする場合はぜひ参考にしてもらいたい。

3 撮影する際のポイント

撮影範囲、撮影機材の設置場所は事前に撮影場所の責任者と打ち合わせし、実際に自分でも確認しなければならない。今回苦労したのは機材の設置場所であった。事前に固定のカメラだけはZ園に準備していたのだが、Z園のような狭い部屋で多くの方が作業している場所ではカメラを置くスペースが非常に狭い。狭いスペースの中でカメラ設置を行うことは調査ではよくある。そういう際の注意をここで述べておくと、本番撮影の前日に打ち合わせで撮影先に行き撮影場所を決定するが、人の動きも考慮して、邪魔にならぬスペースに設置することが大切だ。作業には影響がない場合でも人が移動する際に使用するスペースになることがあるため注意が必要だ。

また音声確認も必要である。普通のビデオカメラの音声録音能力では鮮明な音を録音できない場合、マイクの設置法やマイクの種類を変える方法もあるが、今回の調査ではMDレコーダーを使い音声だけを録音する形をとった。

4 テープ管理

長時間の撮影では多くのテープ数になる。撮影終了のテープはそのつど時間、撮影場所、順番などのデータを記入しなければならない。データの誤消却防止にテープのつめをおっておくと確実だ。データが紛失したり、消却されないよう心がける必要がある。データはデータリストにすると、整理に便利だ。今回撮影でつくったデータリストも調査用具と収集データ一覧に載せているので参考にしてほしい。

参考文献

山崎敬一・山崎晶子・鈴木栄幸・三樹弘之・葛岡英明、1997、「〈附論〉ビデオデータの分析法——ビデオとコンピュータを利用した新しいデータの分析法——」山崎敬一・西坂仰編『語る身体・見る身体』ハーベスト社、285 - 321。

山崎晶子・菅靖子・葛岡英明、2004、「調査の準備とビデオデータの分析法——博物館調査を例として——」山崎敬一編『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣、60 - 70。

徳島大学総合科学部社会学研究室報告 既刊（国立国会図書館等所蔵）

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | エスノメソドロジーとその周辺
ー平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1998年3月発行 |
| 2 | ラジオスタジオの相互行為分析
ー平成9年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版)ー | 1998年10月発行 |
| 3 | エスノメソドロジーと福祉・医療・性
ー平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 1999年2月発行 |
| 4 | 障害者スポーツにおける相互行為分析
ー平成11年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版)ー | 2000年2月発行 |
| 5 | 日常生活の諸相
ー平成11年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2000年2月発行 |
| 6 | 現代社会の探究
ー平成12年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2001年2月発行 |
| 7 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第一版) | 2003年2月発行 |
| 8 | インタビューと対話の相互行為分析ー気配りと配慮の社会学ー
平成14年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版) | 2003年9月発行 |
| 9 | 社会学の窓ードラマティックな日常生活ー
ー平成15年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集ー | 2004年2月発行 |

義肢・装具のエスノメソドロジー

発行日 2005年2月14日

編集 榎田美雄

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

(088) 656-9308 E-mail:Kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/index.html>

発行 徳島大学総合科学部社会学研究室

印刷・製本 平成16年度徳島大学総合科学部榎田地域調査実習報告書発行プロジェクト
